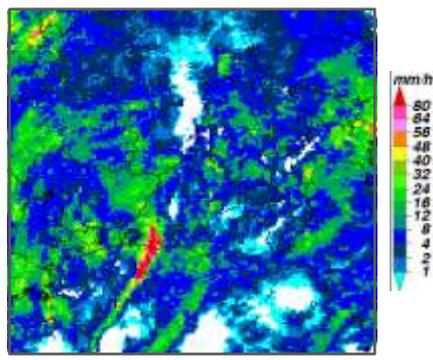
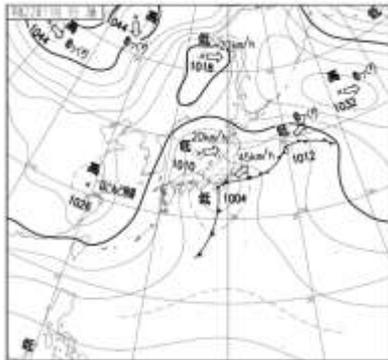


2010年 10月31日～11月1日 南岸低気圧

1. 気象経過

30日には、日本付近の上空に寒気を伴った気圧の谷が東進し、1日3時には静岡県の南岸に前線を伴った発達中の低気圧があつて東北東進していた。中心から温暖前線が、伊豆諸島北部から房総半島沖へとのびており、寒冷前線が南海上へとのびていた。低気圧の中心や前線近傍では、大気の状態が不安定となり、南北に線状となった雨雲が発達し、沿岸地域を通過する際、浜松市付近で一時停滞した。これにより、浜松特別地域観測所では、1日0時58分までの1時間に58.0mmの非常に激しい雨となった。その後積乱雲は、県内を東進していったが、上空の強い風により動きが速く、顕著な強雨とはならなかった。



2. 大雨の原因、特徴

低気圧の接近により、風向が次第に変化。低気圧の前面に吹き込む東寄りの風と後面に吹き込む北西の風との風向の異なるライン(シア)が生じたが、浜松市付近では、このように南北に分布した積乱雲が一時的に停滞する現象がしばしばある。アメダス浜松では、1日2時10分までの3時間雨量が115.0ミリを観測し、11月の極値を更新する大雨となった。浜松市周辺に停滞する原因は様々であるが、低気圧の動きが遅い場合、特に警戒が必要である。

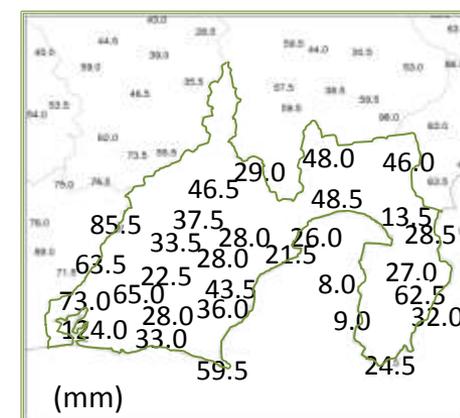
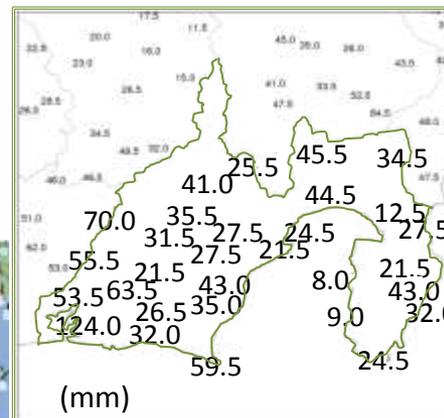
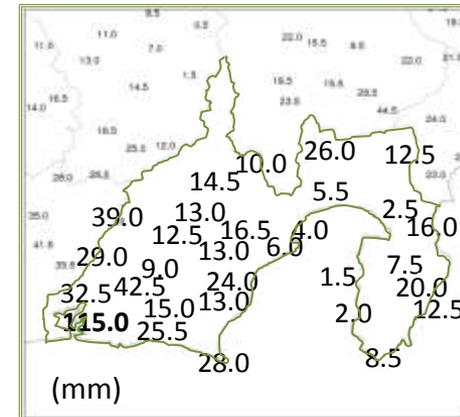
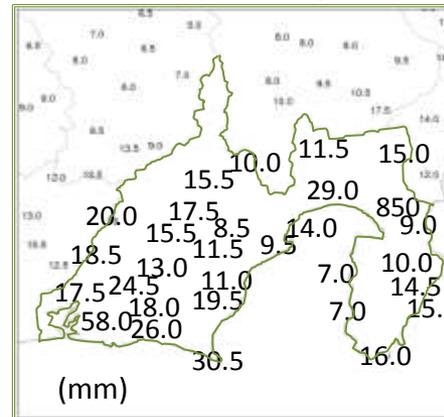


3. 被害概要

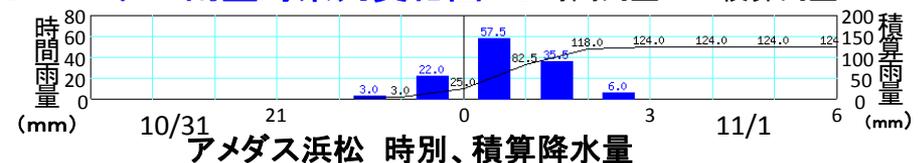
	床上浸水(棟)	床下浸水(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)	一部損壊(棟)	死者不明者(人)	重傷者(人)	軽傷者(人)	倒壊(力前)	道路(力前)	橋(力前)	川(力前)	砂防(力前)	鉄道(力前)
全県	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
中部	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-
西部	0	18	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-
東部	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-
伊豆	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-

被害数は、静岡県 平成22年における災害の状況による

4. アメダス雨量分布図

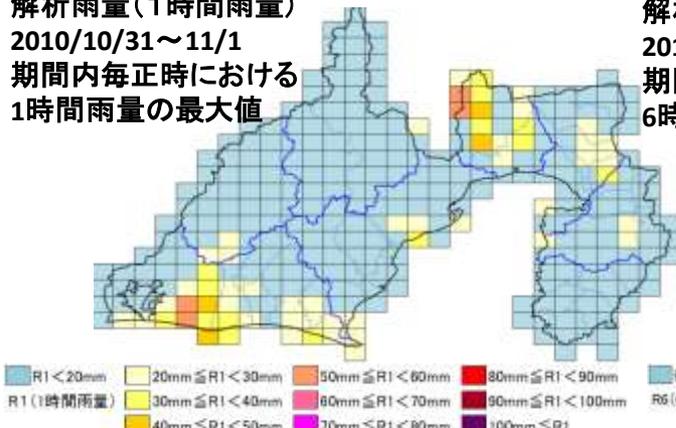


5. アメダス雨量時系列変化図

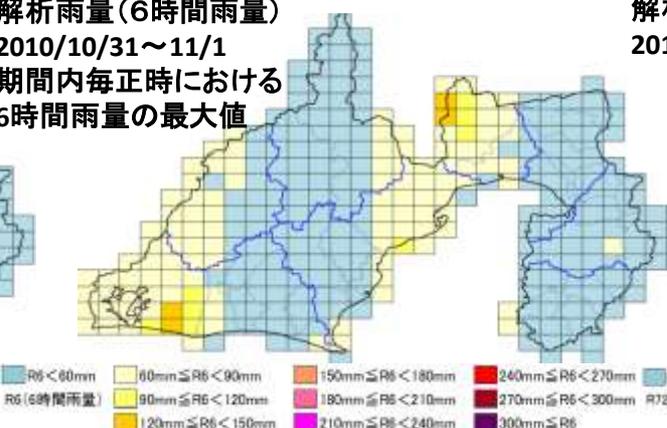


6. 解析雨量分布図

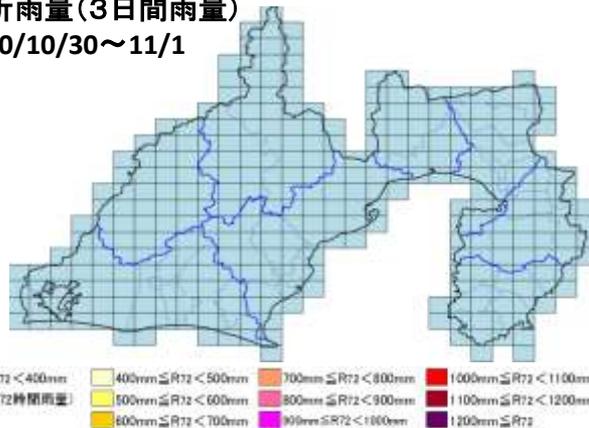
解析雨量(1時間雨量)
2010/10/31~11/1
期間内毎正時における
1時間雨量の最大値



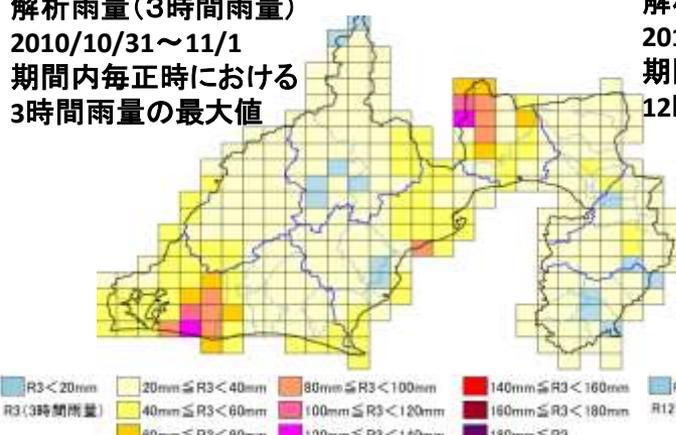
解析雨量(6時間雨量)
2010/10/31~11/1
期間内毎正時における
6時間雨量の最大値



解析雨量(3日間雨量)
2010/10/30~11/1



解析雨量(3時間雨量)
2010/10/31~11/1
期間内毎正時における
3時間雨量の最大値



解析雨量(12時間雨量)
2010/10/31~11/1
期間内毎正時における
12時間雨量の最大値

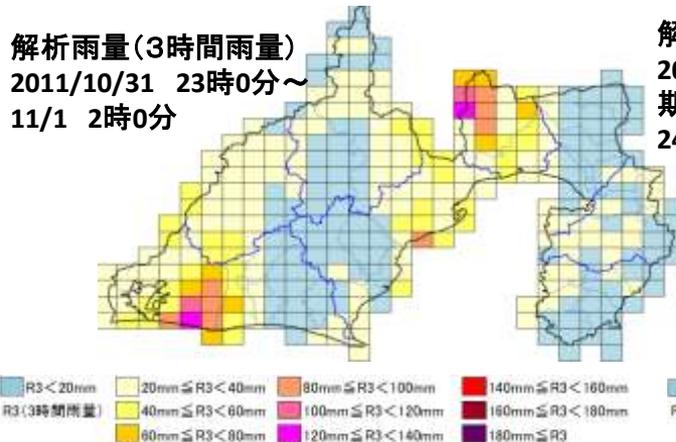


7. 床上、床下浸水被害分布図

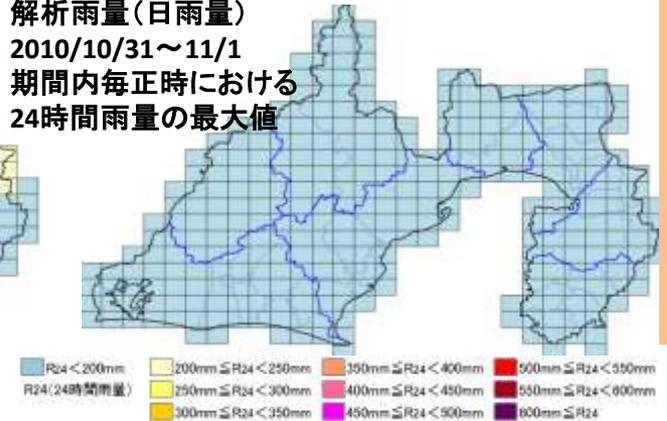


被害数は、静岡県 平成22年における災害の状況による

解析雨量(3時間雨量)
2011/10/31 23時0分~
11/1 2時0分



解析雨量(日雨量)
2010/10/31~11/1
期間内毎正時における
24時間雨量の最大値



解析雨量と浸水害分布図からわかる大雨の特徴

南岸低気圧であり、静岡ウインドプロファイラ高度1500m付近では南東風が持続していたことから、知見上、県内では顕著な大雨にはなりにくい。しかし低気圧近傍では、大気の状態が不安定なことから、低気圧の中心に近い沿岸地域では今回の様な短時間強雨に注意、警戒が必要である。